

第247回撮影例会報告

報告者 相澤幹事

日 時 平成27年4月17日(金) 13時~18時30分 晴 参加者11名
撮影場所 立石海岸、森戸海岸 撮影対象 海岸風景、夕景

計画は15日(水)であったが雨降りの予報が報じられていたので、事前に17日に変更して実施された。本日の予報も晴のち曇りで海岸撮影には芳しくない見通しであったが集合時間には青空が広がっていて天気は崩れそうもない状況であった。

13時に逗子駅前に11名の会員が集合。バスで立石海岸へ向かい13時35分頃立石着。15時に再集合する事にして撮影に入った。

水平線上は霞がかかっているここから見えるはずの富士山は残念ながら見えなかった。少し風が吹いていたので、押し寄せてくる波が海岸近くで砕けて広がる白波と立石海岸のシンボルのような大きな岩を手前に入れ、海岸から小さく突き出た岬の松を遠景に配して典型的な海岸風景や、岩礁に砕けて舞いあがる波の飛沫をシャッタースピードをいろいろ変えて撮る。岸壁の展望台や岩礁の海岸へ下りたり、白波が打ち寄せる砂浜を見下ろす公園からと色々な角度から撮影できた。霞みで富士山が見えなかったのが構図作りの中心が欠けてしまったきらいはあったが撮影を楽しんだ。15時にここでの撮影を打ち切った。

再びバスで途中乗り換えを経て森戸海岸へ移動した。15時40分頃森戸海岸着。

本日の日没時刻(18時15分頃)まで時間があるので、近くの見晴らしのよいレストランでお茶をしながら休憩した。17時20分再び海岸へ出る。水平線の上空は少し霞んでいたが富士山が薄く見えた。富士山の姿を見て俄然張り切り各人思い思いで三脚を立てる場所を選び夕景撮影の準備にかかった。上空に厚い雲があったがその下方は明るく開けていたので夕焼けを期待して日没を待った。太陽が下がってくるにしたがって海面に光芒が見られる。前景に点在する岩礁を選びカメラの向きを横、縦に変えてシャッターを切る。やがて太陽は赤くはっきりと見え富士山の右裾野に没し始める。その刻々の変化をカメラに収めた。富士山の上空近くは薄い雲が浮かんでいたのが太陽が没した後の空が赤く染まる「小焼け」を期待したが赤く輝かずに暮れてしまった。心配した天候もどうやら曇らず、薄いシルエットながらも富士山の姿と日没もカメラに収めることができたので、まずまずの撮影が楽しめた。

18時30分撮影を終了した。バスで逗子駅前に戻り散会した。

Photo by Aizawa

